



新 毎 日 新 聞 日

3月17日(火)

2026年(令和8年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

UACJ地球塾



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

節電、節水…地球温暖化に歯止め



環境問題と理想の地球について考える「#地球塾2050 Xユースミーティング」が2026年1月10日、千葉県柏市の芝浦工業大学柏中学校で開催された。参加した生徒たちは世界の現状や資源に関する話を聞いて、理想の2050年の地球の姿や、そのために今自分ができることについて考え、それぞれの言葉でまとめた。

理想の地球のために行動する 生徒たちのMOTTAINAI宣言



私はいつかトマトを育てて販売したいと思いました。理由はトマトが好きなのと環境にいいからです。私は植物を育てることが環境によいのは知っていましたが、肉や乳製品を減らし、野菜や豆類などを食べることも地球環境によいとは知りませんでした。

またつくる際には環境に優しいものに使いたいです。また販売する際には、アルミ缶を使いたいです。なぜならアルミ缶をリサイクルする際に必要なエネルギーはアルミをつくるときの100分の3程度でも少なく、環境にいいからという点と、とても軽いからです。そしてパッケージは環境問題に関心を持てるようなものに使いたいです。みんながそれぞれ関心を持ち、できることを最大限にしていることが地球に恩返しするということだと思ったり、そんな地球になったらいいなと思いました。

「坂本有咲」



私が思う2050年のありたい地球の姿は、「自然との共生」です。都市部でも、地方でも、少しでも身近なところに植物が生えていてほしいと思います。SDGsが意識されてきた頃から、森林伐採が問題となっていました。最近では、企業が植林の取り組みを行っているのよく聞きます。私はまだ、大きな行動を起こすことはできませんが、自分の庭に植物を植えてみたり、節水をして、水を使わずにいろいろなことにしようと思えます。また、森林だけではなく、適度に地産地消をしたり、お米を食べたりすることで、畑や田が荒れるのを少しでも防げると思います。自然以外にも些細なことに気をつけて、未来が少しでも良くなればいいなと思って、行動して

いきたいです。

「辻陽花梨」

私が思う2050年の理想の姿は、資源に余裕があり、今ほど暑くない姿です。まず、資源に余裕があるというのは、今回の授業で教わったように「アルミニウム」の場合はその性質を活かして建築の際に使えるかもしれない、というような普段は違うもの・ことを使っていたとしても、その資源が足りない場合に何かを代用することが出来ます。その代用をするために普段から「分別」を心がけることが大事だと思いましたが、次に今ほど暑くない姿ですが、そもそもここまで夏が暑くなったり四季のバランスが崩れてきたりしているのは地球温暖化が原因です。地球温暖化の原因となる二酸化炭素をなるべく出さないようにするには「節電・節水」などが自分たちができることだと思います。

「押野 菜奈」

地球は沸騰化時代に入り始めていると言われている。地球を住める星として残すには、一人一人の意識が大切だと思ふ。たとえば、電気を消す、LEDや温室効果ガスをな

るべく出さないようにする、などできることはたくさんある。そのため、僕は自分のやるべきことをするだけだと思ふ。また、人々との交流も大切だと思ふ。地球温暖化は地球規模の問題であるため、世界中の人と協力する必要がある。そのため、交流が大切であると思ふ。あとは、教育も大切だと思ふ。地球温暖化について知らなければ対策のしようがないからである。一人一人の意識、交流、教育が世界中の問題を解決するために大切だと思ふ。

「森谷 武生」

#地球塾2050 Xユースミーティングを通じて、みんなでもやろうと思ふのではなく、一人ひとりが環境を守ろうとする姿勢を取ることが大切だと思ふ。この講演で知った課題である食品ロス、砂漠化、地球温暖化などはこの普段の日常生活でも行動を変えれば少しは軽減できるとわかった。これからはそれらも考えていこうと思ふ。たとえば、食べられる量を意識した買い物や節電・節水など、身近な行動から実践していきたい。また、自分の学びを周囲に伝え、同じ意識を持つ人を増やすことで、2050年の地球をよりよい姿にすることができると思ふ。みんなが行動を変えられることが重要だと思ふ。

「岡本 響介」